



生徒支援の充実のための外部連携

大学生とのオンライン面談を導入し、 生徒の視野と可能性を広げる

長崎県立松浦高校

1分で分かる軌跡

地域の課題に取り組み探究学習に力を入れる長崎県立松浦高校。生徒の進路選択を支援する取り組みとして、教師の負担を軽減しつつ、生徒への個別支援をさらに充実させる方法として、校内の学習スペースを活用した大学生との1対1のオンライン面談を導入した。進路選択や日々の学習に関する大学生からのアドバイスを受けることで、学習スペースを利用する生徒のモチベーションが向上するとともに、そうした生徒の向きな変化を目のあたりにしたほかの生徒が学習スペースを利用し始めるなど、校内での進路意識の広がりと、個々の生徒の進路実現に向けた好循環が生まれている。

#外部連携
#学習スペース

学校概要

設立 1961（昭和36）年
形態 全日制/地域科学科・商業科/共学
生徒数 1学年約70人
2024年度卒業生進路実績
国公立大は、佐賀大、大分大、県立広島大、長崎県立大に4人が合格。私立大は、福岡大、長崎国際大、別府大に延べ5人が合格。短大・専門学校進学16人。就職22人。



校長
宮崎哲郎
みやざき・てつろう
同校に赴任して1年目。



教頭
川崎公隆
かわさき・きみたか
同校に赴任して3年目。



キャリア形成部主任
野口貴史
のぐち・たかふみ
同校に赴任して10年目。数学科。



2学年主任
茶園孝一
ちやえん・こういち
同校に赴任して8年目。地理歴史・公民科（地理）。



まつナビプロジェクトリーダー
鶴田高悠
つるだ・たかひろ
同校に赴任して2年目。数学科。



キャリア形成部
鶴林慎平
うばやし・しんぺい
同校に赴任して3年目。地理歴史・公民科（日本史）。

変革の背景

探究学習で成長した生徒の進路実現を支援したい

長崎県立松浦高校は近年、同校の所在地である松浦市在住の中学生の多くが市外の高校に進学するようになったことから、自校の魅力化・特色化が課題となっていた。そこで同校は、2022年4月に普通科を地域科学科へと改編し、松浦市をフィールドにふるさとの未来を考える3年間の探究学習「まつナビ・プロジェクト」を学校設定科目として

強みに推進することで、自校の魅力化・特色化を進めてきた。

2学年主任で、24年度までまつナビプロジェクトリーダーを務めた茶園孝一先生は、「まつナビ・プロジェクト」は生徒に大きな成長をもたらしたと語る。

「探究学習を通して自分の考えを他者に伝える力が生徒に身についたこと、大学教員や企業の方と協働して地域の課題に粘り強く向き合える生徒が増えたことなど、確かな成果がありました」

探究学習で培われた生徒の資力・能力を、より確実にそれぞれの希望進路の実現へとつなげたいという教師たちの思いが大きくなる一方で、課題もあったと、キャリア形成部主任の野口貴史先生は語る。

「探究学習で設定した課題を、大学に進学してからもさらに深めてほしいと教師が思うような生徒でも、進学に消極的だったり、理系科目に秀でた生徒が、探究学習で設定した文系的な課題に固執して多角的に進路を考えられなかったりするなど、生徒の探究学習と進路選択の連携に

課題を感じることもありました」

変革の一手①

校内に学習スペースを設置。志望理由書講座などを開催

同校は24年度に、生徒が落ち着いて自学自習ができる学習スペース「松高学び場」を校内にオープンした（写真）。平日は午後5時30分から午後8時30分まで、土日祝日は午前8時30分から午後4時30分まで利用が可能で、学習スペースの監督は地域住民が担っている。そのような運営体制は、同校の魅力化・特色化を支援する松浦市からの補助を活用することで実現できており、教師の実務負担を増やさない持続可能なものとなっている。

『松高学び場』を自学自習にとどまらない生徒支援の場にしたという思いは当初からあり、探究学習と進路選択の連携に関しても模索をしていました。大学生を講師とした志望理由の書き方講座を開催したこともありました」（野口先生）



写真 生徒が放課後や休日に自学自習できるように、学習スペース「松高学び場」を24年度から校内に設置した。

お勧めの分掌

管理職

教務担当

進路担当

担任

松浦市内には大学や短大が設置されていないため、生徒が学習や進路面で刺激を受ける機会は都市部の生徒に比べて少ないという現実があった。同校の教師は、生徒が学習や進路面で刺激を受けられるような機能を「松高学び場」に持たせることで、その価値を最大限に引き出せないかと考えるようになった。

要旨の一手 ②

オンラインを活用して 大学生と気軽に面談

そうした中で25年4月、同校は松浦市、ベネッセコーポレーションと連携協定を結び、大学生との1対1のオンライン面談「学習・進路の先輩コーチ」(図)を試行的に導入した。その取り組みは、大学入試を自学自習で突破した大学生から日々の学習や進路に関するアドバイスをもらうことで、「松高学び場」での学習を充実させたり、進路選択における視野を広げたりすることがねらいだ。取り組みにかかる費用の一部は松浦市が負担し、希望する生徒は1回25

分間のオンライン面談を月2回、月額1000円で利用できる。

3年生担任を務める鶴林慎平先生は、「オンライン面談を利用する生徒は、学習方法だけでなく、志望大学の選び方など、大学生に様々な相談をしている」と話す。

「『大学入試の攻略の第一歩は、授業に集中すること』など、私たちが教師が普段から伝えていたことが、大学生の言葉で伝えられるとより説得力を持って届くようです」

オンライン面談を生徒個々の指導に生かすため、鶴林先生は、「学習・進路の先輩コーチ」を利用した生徒に対して、「オンライン面談で学んだこと」「その学びを生かして自分でやってみようと思ったこと」をアンケートで聞き、その回答内容を学年団の教師で共有していきたいと考えている。

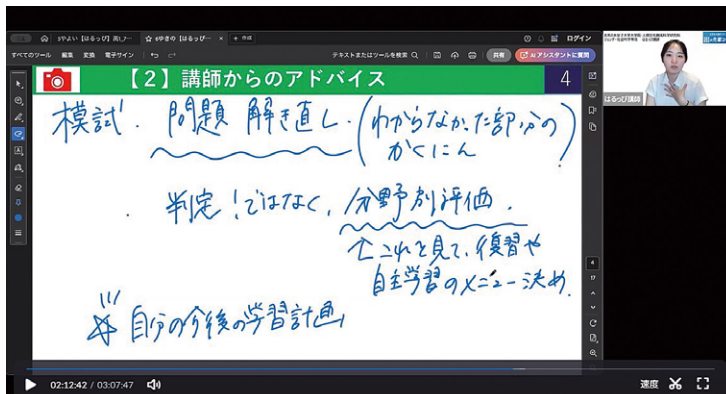
「年齢の近い大学生だからこそ、生徒は自分が抱えている悩みや困りごとを素直に伝えられるのだと思います。そうして大学生とやり取りを行い、その中で生徒が気づいたことや学んだことは、私たち教師の教科指導や進路指導の改善のヒントにな

大学生との1対1のオンライン面談「学習・進路の先輩コーチ」

大学入試を自学自習で突破した大学生が、高校生とオンラインで面談し、学習や進路面の悩み・相談に応えるサービスで、教師への負担の軽減を実現しながら、生徒一人ひとりの個別最適な学びの充実を図ることを目指した、松浦高校・松浦市・株式会社ベネッセコーポレーションによる試行的な取り組み。

大学生が高校生の悩みや疑問に真摯に耳を傾けながら、自身の高校時代の学習や進路選択の経験を踏まえてアドバイスするため、高校生にとっては日々の学習や進路選択での具体的な行動変容につなげやすくなる。今後は、文理選択などのテーマでの進路講演会もオンラインで開催する予定だ。

■ 大学生との1対1のオンライン面談



■ 利用した生徒のコメント

学習の計画を立てる際はまず、月間の目標を立て、それを達成するための週間計画、そして1日1日の計画を立てることで、目標に向かって頑張れる計画が立てられることが分かった。

大学はできるだけたくさん調べて自分に合うところを見つけていくことが大事だということが分かった。上手な暗記方法も教えてもらえてよかった。

進路を決めるために調べるべきことや苦手教科の勉強法、模擬試験に向けてするべきことなどを教えてもらった。専門学校だけでなく、大学についても調べてみようと思う。

大学選択の考え方が自分と親とで異なる場合に、どのように自分の考えを親に伝えればよいか相談できた。苦手教科の勉強法についても教えてもらった。

■ 利用した松浦高校の生徒が感じたメリット (上位3項目抜粋)

項目	割合
実体験を踏まえた具体的な勉強法や進路選択法が参考になる	71.4%
アドバイスが具体的だから取り組みやすい	61.9%
年齢の近い先輩だから親しみが持てて話しやすい	38.1%

※学校資料を基に編集部で作成。

大学生との1対1のオンライン面談「学習・進路の先輩コーチ」については下記のウェブサイトをご覧ください。

▶▶▶ <https://kou.benesse.co.jp/senpai-coach/>

るはずだと考えました」（鶴田先生）

変星の成果と展望

校外の力を借りることで 学校がさらに活性化

「松高学び場」で大学生とのオンライン面談が始まって約6か月。その成果として、まつナビプロジェクトリーダーの鶴田高悠先生は生徒の様々な変化を挙げる。

「最初はオンライン面談に関心を示さなかった生徒が、同級生や先輩が利用する姿を見て興味を持ち、オ



大学生との1対1のオンライン面談に臨む3年生。この日は、秋以降の受験勉強の進め方などを相談した。

ンライン面談を希望するといったケースが増えています。また、オンライン面談を通して『松高学び場』に関心をもち、就職や専門学校志望の生徒が『松高学び場』に足を運ぶ姿も見られるようになりました」

鶴田先生は、探究学習と進路選択の連携を充実させるため、生徒が大学の学問について広く知る機会を「まつナビ・プロジェクト」の中に設けることを構想している。野口先生は、鶴田先生の構想を実現する上で、大学生とのオンライン面談がヒントを与えてくれるのではないかと期待している。

「探究学習で設定した課題がどんな進路につながるのか、取り組んだことをどのように大学入試での面接や小論文で生かすかといったことも、オンライン面談で相談するよう、生徒に促したいと思っています」（野口先生）

地域住民や企業、さらには行政などと密にかかわりながら「まつナビ・プロジェクト」を展開している松浦高校だが、同プロジェクトを担当する教師が異動しても持続可能なも

のとするためには、学校外の多様な人たちの力を借りることが不可欠だと、川崎公隆教頭は考えている。

「本校が探究学習を推進できているのは、学校を応援してくれる人たちが地域にたくさんいるからです。校外の人の力を借りるという点では、大学生とのオンライン面談も同様です。松浦市内外のいろいろな人が応援してくれる学校であることは、地域の中学生にとって、本校を目指す理由の1つになるはずですよ」

外部の力を借りつつ、学校の力を外に発信していくことも重要だと、宮崎哲郎校長は考えている。

「地域の方から『空き地の活用方法について生徒の意見を聞きたい』などと相談されることがあります。松浦高校なら何かできるかもしれません。期待してもらえるのがとてもありがたいです。今後も一層外部の力を学校に取り込みつつ、学校の力を外部に発信しながら教育活動を改善していきたいと考えています」

DXハイスクールとしての挑戦

先端技術を活用して 未来を切り拓く生徒を育てる

校長 宮崎哲郎

読者の皆さん、P.38の写真に写っているドローンに気づきましたか。「DXハイスクール」に指定されている本校は、探究学習においてドローンや3Dプリンターの活用を積極的に進めています。ドローンを活用した取り組みの例としては、市内の中学校のグラウンドでの除草剤の散布や、松浦市の農業委員会と連携し、農地が正しく利用されているかを見回るパトロール活動などを川崎教頭が中心となって行い、地域から高い評価を得ています。大学生との交流同様、先端技術の活用も、生徒が地域や自分自身を新たな視点で見つめ、課題に向き合うことにつながります。地域との連携を土台に、郷土に根差し、先端技術を使いこなして未来を切り拓く生徒が、1人でも多く育ってくれることを心から願っています。



お勧めの分掌

管理職

教務担当

進路担当

担任